

- 問1 縄文時代には、重く割れやすい土器や土偶の制作、長期間の生活痕跡である貝塚の形成といった文化がみられます。これらの文化が形成された背景となる当時の人々の生活様式について、最も適切な説明を選びなさい。（2026年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 1. 支配者の権力を示すために、巨大な古墳を造営して周辺で暮らしていた。 | 2. 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。 | 3. 本格的な水稲耕作を行い、大規模な環濠集落をつくって暮らしていた。 | 4. 大型の野獣を狩猟するため、獲物を追って各地を移動しながら暮らしていた。 |
|--------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--|
- 問2 縄文時代の遺跡からは、女性をかたどったとされる土偶など、当時の精神文化を反映した遺物が多く発見されています。これらの遺物が作られた目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------------|---|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 大陸との交易において、有力者が自分の富や権力を誇示するために作られた | 2. 身分の高い人物が亡くなった際、その墓である古墳に副葬品として納めるために作られた | 3. 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた | 4. 稲作が普及し、収穫した米を保存するためのまじないとして作られた |
|---------------------------------------|---|-------------------------------------|------------------------------------|
- 問3 約1万年以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。（2024年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた | 2. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた | 3. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された | 4. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した |
|--|---------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
- 問4 青森県にある三内丸山遺跡をはじめ、日本各地の縄文時代の遺跡から見つかる「土偶」について、その製作背景や当時の生活の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 香川県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 本格的な稲作が広まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や金属器が普及する中で、魔除けとして作られた。 | 2. 大陸から伝わった仏教の教えが広まり、寺院の本尊として拝むために精巧に作られた。 | 3. 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。 | 4. 王や豪族といった有力者が現れ、巨大な前方後円墳が築かれた際に、死者を弔うために作られた。 |
|--|--|---|---|
- 問5 日本の古代文化における「土偶」と「はにわ」の違いについて、時代背景と目的の観点から説明したものとして正しいものはどれですか。（2026年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 土偶は弥生時代に大陸から伝わった青銅器の一種であるが、はにわは飛鳥時代に仏教とともに伝わった石像の技術で作られた。 | 2. 土偶は写実的な人物像として奈良時代に完成したが、はにわは縄文時代に土器の蓋として実用的に使われていた。 | 3. 土偶は権力者の死を悼むために古墳の内部に納められたが、はにわは狩猟の成功を願って森の入り口に置かれた。 | 4. 土偶は縄文時代に作られ、豊穣や魔除けを祈る呪術的な道具であったが、はにわは古墳時代に作られ、古墳を飾り立てるためのものであった。 |
|--|--|--|---|
- 問6 縄文時代の遺跡から数多く出土する、主に女性をかたどったとされる土製の像を何と呼びますか。自然の豊かな実りや、病気・けがの回復を願うまじないの儀式に使われたと考えられているものを選びなさい。（2023年 徳島県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| 1. 埴輪 | 2. 土偶 | 3. 石包丁 | 4. 銅鐸 |
|-------|-------|--------|-------|
- 問7 縄文時代の人々が、食物の豊作や子孫の繁栄、あるいは病気や怪我の治癒などを願うための信仰として用いた、女性をかたどった土製の像を何と呼びますか。（2023年 香川県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 銅鐸 | 2. 土偶 | 3. 埴輪 | 4. 石包丁 |
|-------|-------|-------|--------|
- 問8 縄文時代に作られた、人間をかたどった特徴的な土製品である「土偶」について、この道具が作られた主な目的として最も適切なものを次の中から選びなさい。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 1. 豊かな収穫や安産などを祈るための、信仰の道具として作られた | 2. 古墳の周囲に並べ、死者の霊を慰めたり境界を示したりするために作られた | 3. 大陸から伝わった稲作の技術を広めるための儀式的道具として作られた | 4. 食料を保存したり、煮炊きを行ったりするための日常的な容器として作られた |
|----------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|--|
- 問9 北海道にはその土地の自然環境や地形に由来する地名が多く残されています。例えば、世界自然遺産にも登録されている「知床（しれとこ）」という地名は、ある先住民族の言葉で「大地の先」を意味する「シリエトク」という言葉に由来しています。この独自の言語や文化を持ち、北海道や千島列島などに古くから住んでいる民族の名称を答えなさい。（2024年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|--------|----------|------------|
| 1. 琉球民族 | 2. 渡来人 | 3. アイヌ民族 | 4. 蝦夷（えみし） |
|---------|--------|----------|------------|
- 問10 2019年に制定された「アイヌ施策推進法」では、アイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現を目指しています。アイヌ民族が日本の先住民族であることを認め、その独自の伝統や文化を維持・振興することで実現しようとしている、多様な背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方を何と呼びますか。（2026年 埼玉県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|------------|------------|-----------|
| 1. 高度情報化社会 | 2. 多文化共生社会 | 3. 持続可能な社会 | 4. 中央集権社会 |
|------------|------------|------------|-----------|
- 問11 縄文時代から弥生時代にかけての住居の構造について、地面を掘りくぼめる方法が取られた主な理由として、当時の生活環境から考えられる説明として最も適切なものはどれか。（2017年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 1. 床を地面から高く離すことで、収穫した穀物の湿気を防ぐため | 2. 大規模な灌漑施設を作る際、土を掘り出す作業と同時に建築するため | 3. 床を地面より低くすることで、室内の温度を一定に保ちやすくするため | 4. 仏教の影響を受け、寺院の建築様式にならって地面に直接柱を立てないようにするため |
|---------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|--|
- 問12 紀元前2000年ごろ、世界でインダス文明が栄えていた時期の日本列島における生活の様子を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 愛知県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 金属器が伝来して武器や祭祀の道具として使われ、有力な王を葬るための巨大な前方後円墳が築かれた | 2. 薄手で硬い赤褐色の土器を用いて食料を保存し、大規模な水田での稲作を中心とした生活を送っていた | 3. 土器はまだ作られておらず、ナウマンゾウなどの大型の獲物を追いながら移動して生活していた | 4. 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた |
|---|---|--|---|
- 問13 日本の歴史において、縄文時代に定住生活が始まり、生活が安定する中で普及した、表面をみがいて形を整えた石器を何と呼びますか。（2018年 徳島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|---------|---------|-------|
| 1. 青銅器 | 2. 打製石器 | 3. 磨製石器 | 4. 鉄器 |
|--------|---------|---------|-------|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。	縄文時代には、竪穴住居をつくり一定の場所に定住する生活へと変化しました。移動しながらの生活では持ち運びが困難な土器や土偶の利用、長年のゴミ捨て場である貝塚の形成は、この定住生活と深く結びついています。
問2	答え 3 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた	縄文時代は、狩りや漁、採集による生活であり、自然の状況に食料確保が左右されました。そのため、土偶などの遺物は、子孫繁栄や獲物の増加、病気の回復といった切実な願いを込めた呪術的な道具として用いられたと考えられています。
問3	答え 1 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた	縄文時代は、氷河期が終わり温暖になった環境に適応した時代です。すばしっこい小動物を狩るための弓矢や、木の実を加工するための磨製石器、そして食料の加工・保存を可能にした土器など、新しい道具が登場したことで、一定の場所に留まって暮らす定住生活が可能になりました。
問4	答え 3 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。	青森県の三内丸山遺跡は、縄文時代の大規模な集落跡として知られており、当時の生活を裏付ける多くの土器や土偶が出土しています。縄文時代の人々は、弓矢を用いた狩猟や木の実などの採集、漁労によって生活を営んでいました。土偶はこのような自然環境に依存した生活の中で、自然の恵みを祈り、豊かな収穫を願う信仰（呪術）の対象として重要な役割を果たしていました。
問5	答え 4 土偶は縄文時代に作られ、豊穰や魔除けを祈る呪術的な道具であったが、はにわは古墳時代に作られ、古墳を飾り立てるためのものであった。	縄文時代の土偶は、自然の恵みを祈る宗教的な役割を持っていました。これに対し、はにわは古墳時代の巨大な墳墓（古墳）に伴うもので、権力者の葬儀や古墳の区画を示すために立てられました。両者は見た目が似ている場合がありますが、狩猟採集中心の縄文時代と、大規模な身分差が生じた古墳時代という社会構造の違いを反映しています。
問6	答え 2 土偶	縄文時代には、自然の恵みを祈ったり、病気やけがの回復を願ったりする儀式が行われていました。その際に使われたのが土偶であり、その多くが女性の姿を模していることから、生命の誕生や収穫への祈りが込められていたと推測されています。これに対し、埴輪は古墳時代の古墳の周囲に並べられたものであり、時代が異なります。
問7	答え 2 土偶	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムを信じていました。この時代に作られた土製の人形は、多くの場合、乳房や腹部が強調された女性の姿をしており、新しい生命の誕生や自然の再生、そして食物の豊作を願う呪術的な道具として使われたと考えられています。古墳時代に作られ、古墳の周囲に並べられた埴輪とは、時代も目的も異なる点に注意が必要です。
問8	答え 1 豊かな収穫や安産などを祈るための、信仰の道具として作られた	土偶は縄文時代を代表する土製品であり、その多くは女性を模して作られています。当時の人々は、自然界のあらゆるものに精霊が宿ると信じており、食料となる植物や動物の豊作、あるいは子孫繁栄や安産を願うための信仰の対象として土偶を用いていました。古墳時代に古墳の周囲に並べられた埴輪（はにわ）と混同しないよう注意が必要です。
問9	答え 3 アイヌ民族	北海道や樺太、千島列島などの先住民族であるアイヌの人々は、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の文化を育んできました。彼らの言語であるアイヌ語は、北海道の多くの地名の語源となっており、「知床」が「シリエトク（大地の突き出た先）」に由来するほか、札幌や小樽などもアイヌ語に漢字を当てはめた地名として知られています。
問10	答え 2 多文化共生社会	アイヌ民族は長年、同化政策などによって独自の文化を制限されてきた歴史があります。しかし現在では、そのアイデンティティを尊重し、異なる文化を持つ人々が互いに理解を深めながら対等な関係で共に生きていく「多文化共生社会」の実現が、人権保障や民主主義の観点から重要な目標とされています。
問11	答え 3 床を地面より低くすることで、室内の温度を一定に保ちやすくするため	竪穴住居は地面を掘り下げることで、外気の影響を受けにくくし、冬の防寒対策としての機能を備えていました。住居の中央には「炉（ろ）」が作られ、暖房や調理に使われていました。選択肢にある「床を高くして湿気を防ぐ」構造は高床倉庫の特徴であり、穀物の保存を目的としたものです。
問12	答え 4 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた	この時期の日本は縄文時代にあたります。人々は縄文土器を使って、植物の採取や狩猟で得た食料を煮炊きして食べるようになりました。また、地面を掘り下げて柱を立て、屋根を葺いた「竪穴住居」を作ることで、定住的な生活が営まれていました。他の選択肢は、弥生時代、古墳時代、旧石器時代の特徴です。
問13	答え 3 磨製石器	旧石器時代には石を打ち砕いただけの打製石器が使われていましたが、縄文時代に入ると用途に合わせて表面をみがき、形を整えた磨製石器が普及しました。この変化は、定住生活の開始や土器の使用といった生活様式の大きな転換と密接に関わっています。